いなほ

稲積神社社報
第51号

令和元年　大祭号

奉祝 令和元年 天皇陛下ご即位

天皇陛下ご即位30年奉祝記念事業

新たな御代を迎え

宮司　根津泰昇

四月十八日天皇、皇后両陛下が伊勢神宮へご譲位のご奉告の御親謁に対しまして奉送迎の栄を賜りました。晩春の爽やかな風が注ぎ常緑樹の葉が舞い落ちる音しか聞こえない静けさの中剣と璽（勾玉）ご動座の下、両陛下が正宮に進まれる御姿に触れ、三十一年の平成の御代に常に国民にお心を寄せてこられた御姿を思うと感謝の気持ちが奥底から沸き感涙にむせび、次の御代の令和も良き御代である事を心底より願わずにいられない思いを深く感じました。

四月二十九日に当社では三十一年の平成御代に感謝を込めるご譲位安泰祈願祭を斎行致しました。

五月一日には新帝陛下が御即位なされ、令和の御代が始まりました。今後は様々な儀式が執り行われますが、悠久の歴史から培われてきた、神々の時代の精神が息づいています。儀式そのものは時代によって変化してきましたが、大嘗祭をはじめとする皇位継承の諸儀式は、神代より現代にまで受け継がれてきたわが国の精神の継承の儀式といえるでしょう。当社のご祭神は宇迦之御魂大神、大宮能売大神の二柱が祀られております。宇迦之御魂大神は古文書に「稲魂」の神とあり、食物神を代表する神と敬まれています。伊勢神宮外宮のご祭神と同一神であります。大宮能売大神は高天原では天照大御神の御前に仕え、地上では天皇の傍近くにいる神であることから、宮中三殿の神殿に祀られております八神のうちの一神でありますので賑々しく御代替わりの奉祝大祭を斎行致したく存じます。

奉祝神賑行事では、当社が所有する万燈神輿と、天皇陛下御即位二十年の奉祝事業で新調した宮神輿の二基が出御いたします。又甲府消防記念会、甲斐清和高校の生徒さん、水泳スポーツ少年団のご協力を仰ぎ、奉祝ムードを盛り上げます。本年の正の木祭りが有意義な祭りである事を願っております。

当社の平成を思い返すと、平成七年から十三年の間おこなった御鎮座四百年記念事業、御即位二十年奉祝事業、神宮式年遷宮・出雲大社平成のご遷宮奉祝事業、御即位三十年奉祝事業等々の記念事業を計画し完遂出来た事は多くの方々のご協力と衷心より感謝申し上げます。

令和の時代も関係者各位と共に歩んで参りたいと存じますのでご教導賜りますと共に新たな御代が崇敬者各位にとって良き御代である事を願っております。

新総代紹介

井上重良

生年月日　昭和三十四年二月十五日
職　業　会社役員　井上鋼材㈱
趣　味　渓流釣り　ゴルフ
抱　負　この度、総代と言う大役を仰せつかる事となりました。まだまだ勉強不足であり、認識不足も多々ありますが、お受けしたからには、今まで以上に、ご奉仕したいと存じています。

総代とは、どういう責務なのか十分に把握しておらず、自分への戒めの為にも、その役割を調べてみました。

神社本庁憲章第十三条では「神社の祭祀、信仰、伝統の保持振興について宮司に協力する」者、また神社本庁庁規第百一条では、「神社の運営について、役員を助け、宮司に協力する」者と、各々定義されております。簡単に言うと、総代とは、神職以外の者で、その神社の信者（氏子・崇敬者）を代表する者で、氏子や崇敬者に対して便宜をはかる世話人的な役と言えます。

総代は、誰が選任するかと言うと、宮司が行うものであって責任役員会に、その権限はないとされています。総代は祭祀活動の補助者として宮司に協力すべき者なので、宮司の意向に沿わない者であればその活動に支障を来たすことから、総代選任の最終的決定権は宮司にあると書かれております。

今後とも、宮司様、役員様に協力し、稲積神社の発展と神社に集う方々の幸せに少しでも貢献できる様、頑張りますので宜しく、ご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

新藤淳

生年月日　昭和四十二年十一月二十六日
職　業　会社役員　藤精機㈱
趣　味　音楽・ゴルフ・スキー
抱　負　この度は総代を拝命いただきまして誠にありがとうございます。とても光栄であり、謹んで引き受けさせていただきます。まだまだ若輩者で、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、稲積神社様に貢献できるように精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

4月11日　総代就任奉告祭

令和元年度 正ノ木例大祭神賑行事（予定）

四月二十六日（金）
・正ノ木献木祭　午前十時～

五月二日（木）
・正ノ木前夜祭　午後六時～
・ザ・コンブポンズ＆原田喜照　午後六時四五分～九時

※模擬店は午後九時まで行われます

三日（金・祝）
・正ノ木例大祭　午前十時～
・宮神輿渡御　午前十一時～
・天皇陛下御即位奉祝パレード　午後一時～
宮神輿二基、子供神輿、出初め・木遣、甲府商工会議所山車、甲斐清和高校
・宮神輿還御　午後三時三十分頃

※甲府囃子は宮神輿の近くで演奏あり
・奉納相撲大会　午前十一時～午後三時
・バザー　正午～午後一時
・崇敬青年会主催行事　午後四時～八時
（かがみもち　ズンバ　バンド他）

四日（土・祝）
・正ノ木二之祭　午前九時～
・神社舞台　午前十時～午後九時
（ご当地アイドル「FUJI SAKURA塾」平元会　三味線演奏　他）

※模擬店は午後九時まで行われます

五日（日・祝）
・正ノ木三之祭　午前九時～
・正ノ木成就祭　午後五時～
・神社舞台　午前十時～午後五時
（プロ歌手　福島はじめ　ご当地アイドル「FUJI SAKURA塾」童謡　ちゃんこの会　他）

※模擬店は午後六時まで行われます

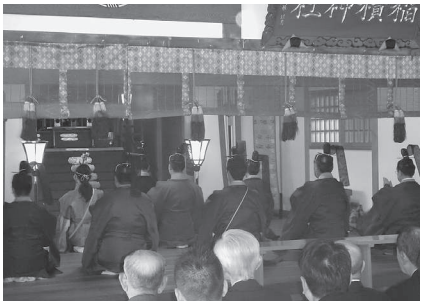
※三日～五日「さるまわし」随時開催

※詳しくは「稲積神社」を検索

正ノ木祭

天皇陛下御即位奉祝正ノ木祭

正ノ木祭実行委員長
藤本　浩



昭和、平成、令和、と時代は移り、平成の約三十年を振り返ってみますと昭和の時代のような戦争はなかったのですが、阪神淡路大震災、東日本大震災、雲仙普賢岳、木曽御嶽山の噴火等々相次ぐ自然災害により多くの人命や財産が失われました。天皇陛下はその度ごとに被災地を訪問し被災者を励まされている姿を拝見し象徴としての天皇の地位を確かなものにしたのではないかと思っているところであります。

平成天皇が譲位され、新天皇が五月一日に即位されその翌日の五月二日前夜祭、五月三日が例大祭、五月四日二之祭、五月五日三之祭と正ノ木祭が開催されることはまさに最高のタイミングではありませんか。歴史に残る正ノ木祭ではないかと思っているところです。このようなことから三日の例大祭にはご即位奉祝のための行事をしようと神社ならびに関係者と協議した結果、神輿渡御の時間帯に併せて奉祝パレードを実施すべき検討をしているところであります。どうぞご期待ください。

今年の正ノ木祭においても二百店舗以上の屋台を出店させる予定であります。実行委員会としましても稲積神社とその外郭団体、太田町を中心とした地域住民、甲府商工会議所をはじめとした各種機関、団体等の協力をいただきながら各種イベント等を開催したいと思っております。まさに歴史と伝統がある庶民生活にとけ込んでいる祭典であり、県内はもとより近県からも多くの人達が訪れる有名なお祭りであります。警察当局と連絡を密にして事件事故等が発生しないよう安全で楽しい祭典にしたいと思っております。

私たち神輿会が平成を振り返りますと、稲積神社が戦災で焼失し、宮神輿も焼失したとお聞きしました。神輿会発足当時は、初代斉藤岳南さま制作の万燈神輿で巡行しており、その後近隣町会ご理解のもと、御神輿をお借りして長い間町内を神輿巡行してまいりました。そして、時をしてやはり神社の宮神輿で例大祭の神輿渡御をしたいという熱い思いが神社関係者皆様に伝わり、約一〇年前「天皇陛下御即位二〇年奉祝記念事業」として、宮内庁御用達宮本卯之助作の雅やかな現在の宮神輿が出来ました。その時には、山梨県神社庁主催の天皇陛下御即位二〇年奉祝提灯行列パレードと一緒に当神社宮神輿が舞鶴城から平和通りを神輿渡御いたしました。

稲積睦会が創立して来年で三五年。昭和も遠くになりにけりではありませんが、私が会長として来年で三〇年になります。今年六四才になり人生の約半分を稲積神社の神輿渡御奉仕に携わらせて頂き、人としてのご神徳を頂く事が出来ましたことに感謝しております。

時代はＡＩ（人工知能）で大きく変わって行きます。新たな御代も稲積睦会は会員と共に伝統文化を継承して行く所存でおりますので、皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

天皇陛下御即位奉祝大祭の神輿巡行を計画

稲積睦会　会長
長潟　英規

陽春の候　皆様におかれましては益々ご健勝の御事とお慶び申し上げます。

本年の稲積神社例大祭「正ノ木祭」も例年通り神輿渡御を行う事となりました。また、五月一日には天皇陛下御譲位による御代替わりがされ「令和」と改元されました。奉祝ムードが高まり当神社でも御代替わりの後の大祭と合いなり、奉祝大祭神輿渡御を計画しました。遊亀通り（魚保～菱和園）にて、神輿渡御に合わせ提灯行列・よさこい・木やり・出初め・山車・神輿二基（宮神輿・万燈神輿）と「奉祝記念パレード」を予定しております。成功裏に成就出来ます様何卒皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

－御代替り－

即位礼

退位礼正殿の儀

剣璽等承継の儀

賢所の儀

皇霊殿神殿に奉告の儀

即位後朝見の儀

賢所に期日奉告の儀

皇霊殿神殿に期日奉告の儀

神宮神武天皇山陵及び前四代天皇山陵に勅使発遣に儀

神宮に奉幣の儀

神武天皇山陵及び前四代天皇山陵に奉幣の儀

即位礼当日賢所大前の儀

即位礼当日皇霊殿神殿に奉告の儀

即位礼正殿の儀

祝賀御列の儀

践祚の式

譲位

剣璽等承継の儀

天皇陛下が御位につかれることを「践祚」といいます。皇位は一日たりとも空白があってはなりません。皇位につかれた陛下は、「三種の神器」をはじめとした皇室に由緒ある品々や天皇陛下の印である「御璽」、日本国の印である「国璽」を継承されます。三種の神器とは、歴代天皇に皇位のしるしとして継承されてきた八咫鏡・天叢雲剣（草薙剣）・八坂瓊曲玉のことです。

即位礼正殿の儀（S64.1.7）

剣璽等承継の儀（S64.1.7）

新しい令和の時代へ

大嘗祭（だいじょうさい）

饗宴の儀

一般参賀

斎田点定の儀

斎田抜穂の儀

神宮に勅使発遣の儀

大嘗祭前一日鎮魂の儀

大嘗祭当日神宮に奉幣の儀

大嘗当日賢所大御饌供進の儀

大嘗祭当日皇霊神殿に奉告の儀

大嘗宮の儀（悠紀殿供饌の儀・主基殿供饌の儀）

大饗の儀

即位礼及び大嘗祭後神宮に親謁の儀

即位及び大嘗祭後神武天皇山陵及び前四代天皇山陵に親謁の儀

即位礼及び大嘗祭後賢所に親謁の儀

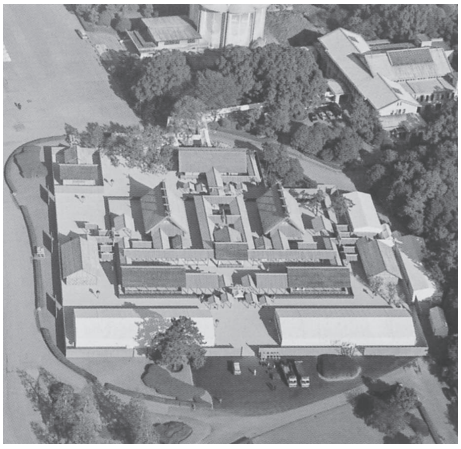
即位礼及び大嘗祭後皇霊神殿に親謁の儀

即位礼及び大嘗祭後賢所御神楽の儀

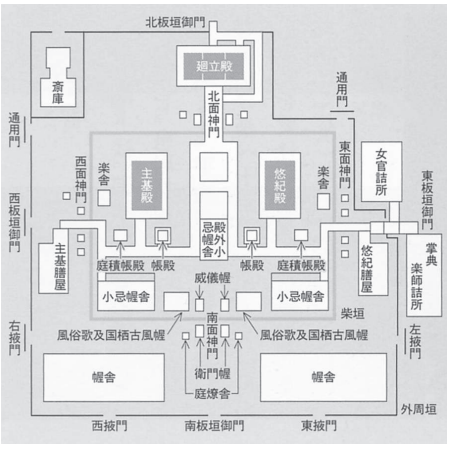
（神社本庁冊子より抜粋）

御一代一度の重儀。

毎年秋、天皇陛下は、その年の新穀を、御祖先である天照大御神をはじめ、神々にお供えし感謝を捧げる「新嘗祭（にいなめさい）」を宮中で御斎行になります。なかでも、陛下が御即位後初めて行われる新嘗祭が「大嘗祭」です。大嘗祭は、天皇御一代に一度行われる祭祀で、御位につかれるうえで不可欠なものであり、数ある祭祀の中で最高の重儀とされています。



大嘗宮全景



大嘗宮平面図

恵方詣りに参加して

藤本恭司

先日私は久しぶりに恵方詣りに参加させて頂きました。気の合う仲間と大型バスに揺られながらの旅行はこの歳になると中々経験出来る事では無いのでとても楽しみにしていました。行程の中でも一番興味があったのが、初めて行く筑波山神社への参拝でした。筑波山神社のご神体は筑波山そのものであるという説明を受けましたが、御祭神には筑波山の男体山と女体山、こちらはそれぞれイザナギ、イザナミの尊であると言われているそうです。そしてさらに摂社には天照大神・月読尊・須佐之男尊・蛭子尊が祀られているそうです。古事記好きな私にとって、このような豪華な顔ぶれに触れることのできる機会に参加し、とても有意義でした。また非常に興味深い事にこの神社は江戸の鬼門を守る神社だそうで、旅行に参加したことで学ぶことが出来ました。鬼門と言えば丑寅の方角、それを封じるのが反対側にいる申、酉、戌。鬼は丑寅にいるから角が生えていてトラのパンツを履いているのだ。と小さいころに桃太郎の解説をされた事を思い出します。天気予報すらない時代、人々が心のよりどころとしていたのは神様や御先祖だと言われています。ですから鬼門の方角に神社やお寺、お墓をおき、鬼門を守ってもらっていた。と何かの書で読みました。これは本当にたまたま偶然なのですが、私の菩提寺がバッチリ工場の鬼門の方角にあるのです。神道では人は亡くなると神になると言います、もしかして神となった両親が我々を守っていてくれているのかも知れません。そう考えると何だかほっとする気持ちと、身の引き締まるような気持ちになります。神社の崇敬会に所属していて一番ありがたい事は色々な世代の方々に触れ合えて多くの学びを得られることです。開府五百年と言われる甲府ですが、実はそれ以前から脈々と受け継がれている尊い先人たちのおかげがあっての事だと感謝の気持ちを忘れないように生きて行こうと思いました。

靖国神社参拝で思うこと

山本建治

桜咲く晴天の日、山梨県神道政治連盟の方々と共に靖国神社に参拝いたしました。昇殿参拝の時、涼風が私のなかを吹き抜けました。靖国の英霊の声を聞いた思いがしました。

思えば今から百五十年前、迷惑頑迷な隣国諸国、傲慢強力な欧米列強諸国の狭間で日本国の独立自存のため、日本人は日本国民になることを決めました。

欧米文化を積極的に摂取することによって欧米の近代資本主義の原理を理解して、同時に飛鳥時代の十七条憲法から明治初年の五箇条の御誓文に連なる各種法典に盛り込まれていた和を尊重する精神をもとにして、自由な議論をする議会を作り上げて国を挙げて富国強兵を進めることを決めました。

神武天皇以来の日本国の安泰と日本国民の安寧を祈る皇室のもとで、国民福祉の増大と日本古来の精神文化を擁護し、天皇陛下を頂く一君万民の立憲君主国を建設することを、決めました。このような皇室（権威）政府（権威）を分化して二重の国家体制を取ることによって日本国の社会の安定をはかることを決めました。

富国政策においては近代資本主義の完成のためには日本国民・日本国政府の奮闘努力が必要でした。強兵政策においては幕末の動乱、戊辰戦争に続く国内の戦い、日清戦争・日露戦争以後の周辺国との戦いを通して実現していかなければなりませんでした。幾多の戦いを通して日本国の独立自存の為多くの命が捧げられました。この英霊の魂を慰めるために靖国神社が創建され英霊の魂は祀られました。他の道があったのでしょうか。日本国古来の権威と権力を分ける伝統からすれば、フランスのような協和制の国、あるいは中国のような皇帝独裁制などの国家運営ができたとは思えません。あの時代列強諸国の侵略をはねのけるためにはこの道しかなかったと思います。先人の覚悟にただ感謝するのみです。

時は過ぎ欧米列強の植民地統治と人種差別に反対して、日本国の独立自存のため大東亜戦争を戦いました。武運拙く敗れました。その後長期に亘る占領を受け多くのことが変わりました。経済的には日本国民の努力によって戦前以上の復興をはたしました。しかしながら明治の初年にかかげた国民国家の理念は失われつつあります。昭和、平成それから令和に御代替わりする今日、改めて日本国と日本国民が追い求めた国家像を再興するために我々日本国民が挙って日々の努力を惜しまず奮闘しなければなりません。新しい元号に令和が決まったこの日新たな決意のもとこれを記します。

安産祈願の歴

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

令和元年　戌（いぬ）の日カレンダー

5月	1日（水）大安	13日（月）友引	25日（土）赤口
6月	6日（木）友引	18日（火）友引	30日（日）友引
7月	12日（金）先負	24日（水）先負	
8月	5日（月）大安	17日（土）大安	29日（木）大安
9月	10日（火）先勝	22日（日）先勝	
10月	4日（金）友引	16日（水）友引	28日（月）仏滅
11月	9日（土）仏滅	21日（木）仏滅	
12月	3日（火）大安	15日（日）大安	27日（金）先勝

平成三十一年熊野社例祭

権禰宜　保田　俊

平成三十一年三月二十六日に、稲積神社摂社の熊野社例祭を御奉仕致しました。

当神社の熊野社は、平成十三年三月二十六日に出雲大社教の当時の「千家達彦館長様」より出雲国一宮熊野大社の御霊分を戴き当神社に御遷座致しました。

御祭神は「伊邪那伎日真名子加夫呂伎熊野櫛御気野命」。この御祭神名は「素戔嗚尊」の別名とされています。「伊邪那伎日真名子」は「イザナギが可愛がる御子」、「加夫呂伎」は神聖な祖神の意としています。

「熊野大神」は鎮座地名であり、神名は「櫛御気野命」であります。「クシ」は「奇」、「ミケ」は「御食」の意で食物神との通説です。

熊野社は、紀伊国の熊野三社が有名ですが、社伝では、熊野村の住人が紀伊国に移住した時に分霊を歓請したのが紀伊国熊野本宮大社の元であると言われています。

素戔嗚尊の御子神で「宇迦之御魂大神」が稲積神社の御祭神であります。御参拝、御祈願の皆様には、開運、方災除、魔除、厄除、縁結等の御神力を持ち、猛々しく勢いのある霊験灼かな大神様の御神恵を授かり運気を開き高め、より良い日々をお過ごし下さい。

稲積神社甲府伊勢講千社詣での集い

第54回『加賀之国　尾山神社、白山比咩神社』参拝と加賀温泉郷に泊まる旅

～晩秋の日本絶景街道ホワイトロード／金沢の台所・近江町市場散策～

◆旅行期日：2019年10月20日（日）～10月21日（月）
◆旅行代金：33,000円（お一人様旅行代金）
◆募集人員：80名（最少催行70名）
◆ご利用予定ホテル：ゆのくに天祥（てんしょう）【山代温泉】

月日曜	行程	食事
10／20（日）	甲府最終出発場所（6：40頃）＝＝＝＜中央道・安房峠道路＞＝＝＝白川郷　基太の庄［昼食］（11：30～12：10）と白川郷［散策］（12：10～12：50） ＝＝＝ホワイトロード（旧スーパー林道）（日本絶景街道　途中降車予定）＝＝＝加賀一之宮（15：00～15：50）　白山比咩（しらやまひめ）神社【参拝】 ＝＝＝加賀温泉郷　山代温泉（泊）（16：40頃）	朝× 昼○ 夕○
10／21（月）	山代温泉（8：20）＝＝＝＜北陸自動車道＞＝＝＝加賀之国 金沢鎮座（金沢名物「和・漢・洋」三層式の神門　9：20～10：10）　尾山神社【参拝】（前田利家公を祀る神社） ＝＝＝「おみちょへ　いらっし」金沢の台所　近江町市場（10：20～12：20）（各自、自由昼食・買物散策）＝＝＝ ＜北陸自動車道・東海北陸自動車道＞＝＝＝＜安房峠道路・中央道＞＝＝＝甲府最初の降車場所（17：40頃）	朝○ 昼× 夕×

常若会五周年

常若会五周年に対しての想い

峯岸一郎

常若会五周年ということで、まだまだほんの数年しか経過していない稲積神社の崇敬会の団体ですが、根津宮司様はじめ事務局の根津禰宜様また、諸先輩方からのご指導ご鞭撻を頂きながら迎えることが出来ました。本当に有り難いことだと思っております。常若会創立時、当時伊勢神宮式年遷宮の特別神領民として「お白石持行事」に参加時、宮司様より「若手の会を作るので是非盛り上げてほしい」とお声をかけて頂き、私の常若会の活動が始まりました。私の趣味は神社仏閣巡りが大好きで、地方に行ったら必ずお参りするというのが日課となっており、そのきっかけは、私が平成元年に日立金属㈱安来工場入社時、出雲大社、日御碕神社にお参りして奥出雲の金屋子神社にも参拝しておりました。出雲の歴史の中に神話が数多くあり、日本文化のなかに神社という崇高な文化と歴史があるということを肌で感じ更に深い学びが必要であると認識したのが、出雲大社からでした。禰宜様が出雲大社で多くの事を学ばれたという偶然も重なり、また子供の頃昭和四十年前半幸町に住まいがあり、よく父と遊亀公園と神社には手を繋ぎ行ったものでした。良き御縁で常若会に所属でき、諸先輩方からの多くの助言また、歴史と文化を口伝でご教授いただけるという事、後生に伝えるという大きな役割を私自身、おこなって次の時代そして、次の式年遷宮に向けて、新たな仲間と一緒になって、日本の大切な「神道」そして甲府の大事な文化でも有る稲積神社の歴史を伝え残し、地域のための神社として盛り上げていきたいと微力ながら思っております。五周年ということで常若会の発展そして崇敬会に対して様々寄与していきたいと思っております。特に毎年恒例の正ノ木祭りを大事にしていきたいと思っております。五周年を迎えられたことに対して心より感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

宮司特級祝賀会にて

針供養祭参列

恵方参りに参加して

まだまだひよっこ
—常若会発足五周年によせて—

小林隆広

オギャーと産まれた子どもが幼稚園児に、ピッカピカの小学一年生が六年生のお兄さん・お姉さんに。五年の歳月は幼い子の生活環境に劇的な変化をもたらす。

さて、見かけは人並みに立派な中高年の仲間入りした私の五年間はどうだっただろうか。悲しいかな、劇的な変化は…無い。しかし、この五年で知り合った神社関係の方々や常若会の面々に刺激され、精神的には若干の進歩がみられるはずである。いや、そうであって欲しいのである。毎月の例会は、ただ呑んでいるだけのようだが、個性的な会員との会話の中には人生を豊かにしてくれるヒントがたくさん隠されているのだから。

五周年を迎えたとはいえ、まだまだひよっこ。会の由来である「古くなったものを創り替えて常に若々さを保つ」この精神を大切に、十周年、二十周年と気のおけない面々と切磋琢磨し、神社と共に常若会も、私個人も成長できるように日々精進していきたい。

まずは、薄くなってきた髪の毛の植毛かな…。

定例会

定例会